

新興市場銘柄

1. 評価対象企業（27 社）

ミクシィ、クルーズ、UTグループ、柿安本店（新規）、夢真ホールディングス（再評価）、夢の街創造委員会、日本マクドナルドホールディングス、セリア、RIZAPグループ（再評価）、ティーケービー（新規）、串カツ田中ホールディングス（新規）、SHIFT（新規）、創通（新規）、ドリコム（再評価）、ユーザベース（新規）、セプテーニ・ホールディングス、プロトコーポレーション、インフォコム、東映アニメーション、イトクロ、フリークアウト・ホールディングス、日特エンジニアリング、メタップス、ハーモニック・ドライブ・システムズ、メイコー、フェローテックホールディングス（再評価）、CYBERDYNE

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 対象企業の選定方法および評価方法

（1）対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、ジャスダック、マザーズ、セントレックス、Q-Board およびアンビシャスの 5 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、しかもその企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 27 社（昨年度 28 社）とした。なお、27 社の内、継続評価が 17 社、新規評価が 6 社、再評価（2 年以上前に対象とした企業）が 4 社となっている。

（注 1） アナリストへのスコアシート発送時（本年 5 月上旬）、上場後 1 年未満の企業は対象から除外した。

（注 2） 昨年 12 月下旬時点の時価総額を基準とした。

（注 3） 本年 1 月当協会が証券会社等へ新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

（2） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	3	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	15
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	2	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	1	5
計		12	100

（注）評価項目の内容および配点は 144 頁参照

（3） 評価実施アナリストは 59 名（28 社）である。（145 頁参照）

3. 評価結果

（1）総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（143 頁）参照）

- ① 本年度は、**経営陣の IR 姿勢等**の分野において項目の新設、配点変更を行い、評価を実施した。また、新規評価または再評価の企業もある。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 58.3 点（昨年度 62.4 点）、総合評価点の標準偏差は 10.2 点（昨年度 9.0 点）であった。

- ② 総合評価点については 80 点台となった企業はなく（昨年度もなし）、70 点台が 3 社（昨年度 8 社）、60 点台が 10 社（昨年度 8 社）で、60 点台以上となった企業は昨年度より 3 社減少した。他方、50 点台の企業は 8 社（昨年度 8 社）、40 点台の企業は 5 社（昨年度 4 社）、30 点台の企業は 1 社（昨年度なし）で、50 点台以下の企業は 2 社増加した。
- ③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 62%（昨年度 66%）、**説明会等**が 55%（昨年度 63%）、**フェア・ディスクロージャー**が 64%（昨年度 68%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 52%（昨年度 52%）、**自主的情報開示**が 55%（昨年度 59%）となり、**コーポレート・ガバナンス関連**は同率であったものの他の分野は昨年度を若干下回った。
- ④ また、アナリストの意見を見ると、経営陣自ら IR を行っているなどその取組姿勢や、IR 部門の対応など同部門の機能について総じて評価できるとの声や、中・長期戦略の具体的な説明、業種の状況に応じホーム・ページでの開示、決算説明会以外の開示に自主的・積極的に取り組んだ企業が評価されたとの声があった。
- ⑤ 一方、全 12 項目の平均得点率を見ると、最高で 67%、最低で 51%の範囲にある。特に、下記 6 項目（**経営陣の IR 姿勢等**の 1 項目(f)、**説明会等**の 2 項目(c)(d)、**コーポレート・ガバナンス関連**の 2 項目(a)(b)、**自主的情報開示**の 1 項目(e)）は、平均得点率が 50%台で、他の項目に比べ低水準となっている。
- (a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」（平均得点率 51%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：20%台 1 社・30%台 2 社・40%台 8 社・50%台 10 社）
- (b) 「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 53%）（得点率：30%台 2 社・40%台 8 社・50%台 10 社）
- (c) 「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか」（平均得点率 53%）（得点率：20%台 1 社・30%台 1 社・40%台 7 社・50%台 9 社）
- (d) 「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか」（平均得点率 55%）（得点率：30%台 4 社・40%台 5 社・50%台 6 社）
- (e) 「ホーム・ページでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか」（平均得点率 55%）（得点率：40%台 9 社・50%台 8 社）
- (f) 「IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか」（平均得点率 59%）（得点率：30%台 3 社・40%台 4 社・50%台 6 社）
- ⑥ なお、本年度新設した下記項目については、次のとおりとなった。
- ・ 「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていますか」（平均得点率 65%）（得点率：80%4 社・70%台 8 社・60%台 6 社・50%台 6 社・40%台 3 社）

(2) 優良企業（上位 3 企業）の評価概要

第 1 位 プロトコーポレーション（ディスクロージャー優良企業〔8 回目〕、総合評価点 74.7 点〔昨年度比＋4.8 点〕、昨年度第 9 位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**（得点率〈以下省略〉87%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（72%）が第 1 位、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（77%）、**説明会等**が第 5 位（70%）、**自主的情報開示**が第 10 位（60%）となり、**自主的情報開示**を除く 4 分野の得点率が昨年度を上回った。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて各セグメントの戦略を分かりやすく説明していることが評価された。また、IR 部門が、経営陣の代弁者として機能していることも評価された。さらに、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても開示していることも評価された。「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」は同得点第 8 位に留まった。なお、成長戦略、投資中の事業について将来の期待リターンの明快な説明、リスクの説明の充実を望む声があった。

- ③ **説明会等**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「今期業績計画の説明、四半期の情報開示」に関して、今期業績計画について根拠を示し整合性のある説明をしていること、四半期の情報開示について経営実態に即して十分に行われていることが評価された。また、収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていることも評価された。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、投資家にとって重要と判断される事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、ホーム・ページに当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていることが高く評価され、この分野において第1位となった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった2項目について、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の開示」に関して、十分に説明されていることが評価され、また、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制の説明」に関して、十分に説明されていることが評価され、この分野においても第1位となった。

第2位 セリア（ディスクロージャー優良企業〔5回連続5回目〕、総合評価点 71.6点〔昨年度比－3.1点〕、昨年度同順位）

- ① 同社は、**フェア・ディスクロージャー**が第2位（78%）、**経営陣のIR姿勢等**が第3位（75%）、**説明会等**（72%）、**コーポレート・ガバナンス関連**（66%）が同得点第3位、**自主的情報開示**が第13位（54%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて強みや戦略を丁寧に説明していることが評価された。また、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても開示していることも評価された。「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」は第6位に留まった。
- ③ **説明会等**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「今期業績計画の説明、四半期の情報開示」に関して、今期業績計画について根拠を示し整合性のある説明をしていること、四半期の情報開示について経営実態に即して十分に行われていることが評価された。また、収益および財務分析に必要なデータが十分に記載されていることも評価された。なお、費用の開示が不十分との声、説明会において開示されている資料でも手元に残らないデータや、ホーム・ページに開示されていない資料があるとの声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、投資家にとって重要と判断される事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていることが評価された。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の説明」に関して、説明されていることが評価された。

第3位 ハーモニック・ドライブ・システムズ（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 71.1点〔昨年度比－1.9点〕、昨年度同得点第4位）

- ① 同社は、**経営陣のIR姿勢等**（79%）、**説明会等**（73%）が第1位、**コーポレート・ガバナンス関連**が同得点第5位（62%）、**フェア・ディスクロージャー**が第9位（69%）、**自主的情報開示**が同得点第19位（48%）となった。
- ② **経営陣のIR姿勢等**においては、経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していることが評価された。また、IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していることも高く評価され、この分野において第1位となった。なお、「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」は第5位であった。
- ③ **説明会等**においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった2項目について、「今期業績計画の説明、四半期の情報開示」に関して、今期業績計画について根拠を示し整合性のある説明をしていること、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていることが評価され、また、「中・長期の成長見通しの説明」に関して、生産能力増強について数値で示すなど、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていることも評価され、この分野で第1位となった。なお、用途別売上高、受注高の開示を評価する声がある一方、課題として、用途別売上高の計画ベースの開示、中期戦略の説明、第1四半期・第3四半期の補足資料の開示などを望

む声があった。

上記のプロトコーポレーション、セリア、ハーモニック・ドライブ・システムズの努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら3社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

(3) 上記以外の企業についての評価概要

○ S H I F T（総合評価点 69.4 点、第 4 位〔新規〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（74%）、コーポレート・ガバナンス関連（66%）が同得点第 3 位、経営陣の IR 姿勢等が第 4 位（75%）などとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、経営陣が、IR 活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していることが評価された。また、IR 部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していることも評価された。「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」は第 7 位に留まった。
- ③ フェア・ディスクロージャーにおいては、投資家にとって重要と判断される事項の開示が迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていること、ホーム・ページに当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていることが評価された。
- ④ コーポレート・ガバナンス関連においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制の説明」に関して、十分に説明されていることが評価された。

○ イトクロ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 69.0 点〔昨年度比+6.8 点〕、第 5 位〔昨年度第 15 位〕）

- ① 同社は、コーポレート・ガバナンス関連が第 2 位（67%）、説明会等が同得点第 3 位（72%）、フェア・ディスクロージャーが第 5 位（73%）、経営陣の IR 姿勢等が第 10 位（67%）などとなった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、IR の基本スタンスとして、会社にとって都合の悪い情報、弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示していることが評価された。「フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていること」は第 12 位に留まった。
- ③ 説明会等においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった、「今期業績計画の説明、四半期情報開示」に関して、根拠を示し整合性のある説明をしていることや、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていることが評価された。なお、課題として、中期計画の根拠数値等を含む資料の充実を望む声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、ホーム・ページに当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていること、英文による情報提供を行っていることが評価された。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、評価対象企業全体として得点率が低水準となった 2 項目について、「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等の開示」に関して、十分に説明されていることが評価され、また、「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制の説明」に関して、十分に説明されていることも評価された。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2018年度 ディスクロージャ-評価比較総括表 (新興市場銘柄)

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス			2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示			3. フェア・ディスク ロージャー			4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示			5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		
			評価項目4 (配点 35点)			評価項目3 (配点 25点)			評価項目2 (配点 15点)			評価項目2 (配点 20点)			評価項目1 (配点 5点)		
			評価点	順位		評価点	順位		評価点	順位		評価点	順位		評価点	順位	
1	4298 プロトコーポレーション	74.7	26.8	2		17.6	5		13.0	1		14.3	1		3.0	10	
2	2782 セリア	71.6	26.2	3		17.9	3		11.7	2		13.1	3		2.7	13	
3	6324 ハーモニック・ドライブ・システムズ	71.1	27.8	1		18.2	1		10.3	9		12.4	5		2.4	19	
4	3697 SHIFT	69.4	26.1	4		16.2	9		11.1	3		13.1	3		2.9	11	
5	6049 イトクロ	69.0	23.6	10		17.9	3		11.0	5		13.4	2		3.1	8	
6	2146 UTグループ	67.9	25.4	6		18.0	2		10.1	10		11.2	10		3.2	6	
6	4293 セブテニ・ホールディングス	67.9	25.4	6		15.8	11		11.1	3		12.2	7		3.4	3	
8	6145 日特エンジニアリング	67.1	26.0	5		16.7	7		10.5	8		11.7	9		2.2	23	
9	6787 メイコー	65.2	23.0	12		16.6	8		9.8	15		12.0	8		3.8	1	
10	3479 ティーケーピー	64.5	25.0	8		17.1	6		10.1	10		10.1	15		2.2	23	
11	3966 ユーザベース	62.6	21.8	13		16.0	10		9.8	15		12.4	5		2.6	14	
12	6890 フェローテックホールディングス	62.4	24.1	9		15.2	13		9.0	20		10.4	13		3.7	2	
13	4348 インフォコム	60.3	21.6	14		15.3	12		9.8	15		10.8	11		2.8	12	
14	2121 ミクシイ	57.9	21.6	14		13.3	14		10.6	7		10.0	16		2.4	19	
15	4816 東映アニメーション	57.5	20.8	17		13.2	16		10.1	10		10.3	14		3.1	8	
16	3793 ドリコム	56.1	21.4	16		12.1	19		9.5	18		10.5	12		2.6	14	
17	7779 CYBERDYNE	55.3	23.3	11		11.7	20		8.5	21		9.2	18		2.6	14	
18	3711 創通	54.2	20.8	17		13.3	14		10.0	13		7.8	25		2.3	22	
19	3547 串カツ田中ホールディングス	53.2	19.4	19		13.2	16		8.2	22		10.0	16		2.4	19	
20	2138 クルーズ	51.9	18.5	21		11.5	21		10.7	6		9.2	18		2.0	26	
21	2294 柿安本店	51.4	18.7	20		13.0	18		8.0	23		9.2	18		2.5	17	
22	2702 日本マクドナルドホールディングス	49.7	16.7	23		11.1	23		10.0	13		8.6	22		3.3	4	
23	2928 RIZAPグループ	48.1	17.9	22		11.4	22		7.5	24		8.8	21		2.5	17	
24	6172 メタックス	43.6	13.9	27		8.6	26		9.3	19		8.5	23		3.3	4	
25	2362 夢真ホールディングス	43.5	16.7	23		9.4	25		7.4	25		7.8	25		2.2	23	
26	6094 フリークアクト・ホールディングス	40.2	14.3	26		7.6	27		7.2	26		7.9	24		3.2	6	
27	2484 夢の街創造委員会	38.3	16.0	25		10.0	24		5.0	27		5.3	27		2.0	26	
	評価対象企業評価平均点	58.32	21.58			14.00			9.60			10.38			2.76		

(注1) 総合評価点が同順位の場合、社名はコード番号順に掲載。
(注2) 評価対象企業各社の総合評価点の標準偏差は、本年度は10.2点(昨年度9.0点)であった。

2018年度 評価項目および配点(新興市場銘柄)

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス		配点
		(35点)
(1) 経営陣のIR姿勢		
・ 経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価]		15
(2) IR部門の機能		
・ IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価]		10
(3) IRの基本スタンス		
① フェア・ディスクロージャー・ルールの導入を機会に、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]		5
② 会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]		5
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示		配点
		(25点)
(1) 決算説明会、インタビューにおける開示		
① 今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価]		10
② 中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。 [1点～10点の整数で評価]		10
(2) 説明資料等(短信およびその付属資料を含む)における開示		
・ 収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]		5
3. フェア・ディスクロージャー		配点
		(15点)
(1) フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢		
投資家にとって重要と判断される事項(業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等)の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。 [1点～10点の整数で評価]		10
(2) ホーム・ページにおける情報提供		
ホーム・ページ(ウェブ・サイト)に、当該企業を分析するために必要な基本的情報が十分に掲載されていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価]		5
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示		配点
		(20点)
(1) 資本政策、株主還元策等の開示		
・ 資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]		10
(2) 経営機構、経営資源および内部統制について		
・ 経営機構(社外取締役の独立性等)、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。 [1点～10点の整数で評価]		10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示		配点
		(5点)
ホームページでの開示や決算説明会以外での開示(工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など)に取り組んでいますか。(前年7月から本年6月までの間) [1点～5点の整数で評価]		5

新興市場銘柄専門部会委員

部 会 長	納 博司	いちよし経済研究所
部会長代理	渡辺 真理子	UBS 証券
	新谷 嘉史	三井住友信託銀行
	古島 次郎	大和証券
	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
	東田 暁	野村アセットマネジメント
	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
	吉田 純平	野村證券

評価実施アナリスト（59名）

新谷 嘉史	三井住友信託銀行	宝田 めぐみ	東洋証券
新井 勝己	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券	竹内 織絵	インベスコ・アセット・マネジメント
石井 大樹	第一生命保険	谷林 正行	QUICK
石橋 剛	三井住友アセットマネジメント	田畑 剛	野村アセットマネジメント
井本 朝子	みずほ証券	田村 真一	極東証券経済研究所
入沢 健	立花証券	寺島 正	大和証券投資信託委託
大浦 祐太	第一生命保険	得能 修	インベスコ・アセット・マネジメント
大平 光行	東海東京調査センター	富田 展昭	極東証券経済研究所
大谷 章夫	東京海上アセットマネジメント	豊田 博幸	QUICK
織田 浩史	SMBC 日興証券	中尾 謙介	三井住友信託銀行
勝木 敏徳	野村證券	中川 雅嗣	三菱 UFJ 国際投信
金森 都	SMBC 日興証券	永田 和子	QUICK
岸本 晃知	岡三証券	納 博司	いちよし経済研究所
北原 淳平	東京海上アセットマネジメント	萩原 幸一朗	東海東京調査センター
城戸 謙治	アセットマネジメント One	長谷川 義人	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券
絹川 友彦	野村アセットマネジメント	畑田 真	東海東京調査センター
木村 嘉明	ニッセイ アセット マネジメント	東田 暁	野村アセットマネジメント
栗原 智也	東海東京調査センター	平井 克典	東京海上アセットマネジメント
古島 次郎	大和証券	皆川 良造	野村證券
小林 守伸	ニッセイ アセット マネジメント	森田 正司	岡三証券
権藤 貴志	農林中金全共連アセットマネジメント	安岡 智史	三井住友信託銀行
近藤 将人	三井住友信託銀行	安田 秀樹	エース経済研究所
坂井 ゆかり	三菱 UFJ 信託銀行	山口 威一郎	大和証券投資信託委託
桜井 雄太	野村アセットマネジメント	山口 健二	第一生命保険
清水 康之	QUICK	吉田 純平	野村證券
鈴木 崇生	大和証券	吉田 琢	東京海上アセットマネジメント
住谷 龍太	第一生命保険	米島 慶一	クレディ・スイス証券
関根 哲	大和証券	渡辺 洋之	三井住友アセットマネジメント
高田 悟	ライオン・アイ・ダウリュ	渡辺 真理子	UBS 証券
高口 成彦	いちよし経済研究所		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。